

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## 国際交流は一日にしてならず！

### 国際交流の今

クリア派遣の3年間には、主に国際交流を担当しました。その中で、1998年頃まで盛んであった姉妹都市締結が、近年は国内外で飽和状態になってきており、言葉や地理的な問題、市町村合併などによる提携先の変更などの理由で、既存の交流が止まっている事例を知りました。一方で、経済界の要求から人的交流や文化的交流よりも経済的な交流を求める動きも世界的に高まっており、時代にあった持続可能な国際交流について考えさせられました。

### 持続可能な国際交流の秘訣

国際交流を行ううえで大きな壁となるのが、距離や時差、言語の問題です。特にフランスは、英語が第一言語ではなく、日本と1万km弱離れ、時差が7～8時間と、アジアや英語圏の都市との交流に比べると壁が高いです。

しかし、派遣中には、1回あたりの交流規模は小さくなくても、着実に次の事業へとつなげ、フランスでの知名度を高め、新たな経済交流に取り組む日本自治体の方々と情報交換することができました。その中で、持続可能な国際交流の秘訣は、パリ事務所や在仏日本国大使館など日本関連機関が主催するイベントへの参加や CIR (国際交流員) の効果的な活用だと感じました。

### 国際交流は一日にしてならず

帰国後は、国際課で国際交流を担当しています。岡山市の国際友好交流都市の1つであるブルガリア共和国・プロヴディフ市が欧州文化首都2019の開催地となった機をとらえ、昨年、岡山市から市民文化交流団を同市に派遣し、日本の伝統音楽や岡山のうらじゃ踊りを披露しました。同市には、姉妹都市縁組20周年を記念して、

岡山市市民協働局市民協働部国際課 主任 山本 さやか

岡山市から寄贈した桃太郎像がありますが、この派遣で、2022年に迎える50周年記念として、今度は同市から岡山市に像が寄贈されることが決まりました。両市の先人たちが築いた交流の歴史が未来につながっていく瞬間に居合わせ、国際交流は一朝一夕では成し得ないと実感しました。

### With コロナ下の国際課の役割

新型コロナウイルスの影響で、今年度の国際交流は延期や中止を余儀なくされています。しかし、先行き不透明の現状に対して、いつまでも国際交流はできないとあきらめるのではなく、オンライン等を利用した新たな国際交流を模索していくことが国際課に求められていると感じます。過去からつながる国際交流のバトンを次につないでいけるよう、コロナに負けず、微力ながら尽力していきたいと思います。



1993年に姉妹都市縁組20周年を記念して岡山市からプロヴディフ市に寄贈した桃太郎像

#### プロフィール・ほか

- 所属：岡山市市民協働局市民協働部国際課
- クリア時代の所属：  
2016年4月～2017年3月 東京本部交流支援部交流親善課  
2017年4月～2019年3月 パリ事務所